

令和3年度

学校評価アンケートのお知らせ

天童市立干布小学校

令和4年2月21日

TEL 654-2307

FAX 654-2292

アンケートへのご協力ありがとうございました

日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度干布小学校では、学校の教育目標である「心豊かにたくましく生き抜く子供」の育成に向けて、学校経営の重点に【自分たちで学校生活を新たに創っていく子供の育成】を掲げ、細分化した4つの重点のもと、具体的な10項目を基盤に教育課程を編成して日々の教育活動に取り組んでまいりました。しかしながら、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により教育活動の中止や変更、制限下での活動を余儀なくされました。

こうした状況の中でも、「学びを止めない」といった視点に立ち、子供達の安全に十分に配慮した上で、「何ができるか。どうやったらできるか。」といったスタンスで教育課程の修正をしながら実践を重ねてまいりました。1人1台タブレットをフル活用し、教師も研修を積み重ねながらよりよい学びにつながる「未来につながるわくわく体験」を推進してまいりました。また、干布小学校の強みである地域の力をお借りし、児童と「様々な人やもの・こと」をつなぐ働きかけにより、様々な出会いや体験を通して多様な価値にふれ、よりよいものを求めようとする「地域から学ぶ本物体験」を大切にまいりました。

ご協力いただきましたアンケートを分析・考察した結果、教育活動の質的向上に向けて改善すべき点やさらに努力すべき点が明らかになりました。この結果を真摯に受け止め、課題は具体的な対策を講じて改善を図ってまいります。

未だコロナの終息の見通しが立たない状況ではありますが、今後とも、この度のアンケートに限らず、学校へ忌憚のないご意見やご指導をいただきますようお願いするとともに、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度 学校経営の重点と具体策

◎未来につながるわくわく体験

経営の重点1 自律した学びにつながる学習に改善する

- (1) 校内研究「根拠を明確にして話すことができる子供の育成」の日常化
- (2) 読書活動の拡大
- (3) 自律した学びにつながる生活科や総合的な学習の時間

経営の重点2 未来に生きる子供に必要な資質・能力を育成する

- (1) ICT活用の推進
- (2) 情報活用能力の育成

◎地域から学ぶ本物体験

経営の重点3 自治活動を通して生活を創る活動を改善する

- (1) 委員会活動による子供主体の活動の推進
- (2) 異学年交流の充実

経営の重点4 地域を支える人材をつくる工夫をする

- (1) 地域の人材や素材等、本物にふれる学習づくり
- (2) 姉妹校四谷小との交流計画（50周年にむけて）
- (3) 特別支援教育を通じた自立活動の推進

教育活動を貫く
キーワード

つなぐ・つくる

****学校評価における児童アンケート結果の考察****

◇2「友達の考えをよく聞いて自分の考えを発表している」

「よくあてはまる」の回答が昨年度より減少し、「あてはまる」の回答が増加しましたが、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は昨年度より微減しました。校内研究「根拠を明確にして話すことができる子供の育成」の日常化をめざし、ICT機器を有効に活用して自分の考えを友達に伝えることのできる子供を育ててまいります。

◇4「ぼく（わたし）は先生に自分の気持ちをよく話している」

「よくあてはまる」の回答が昨年度より減少し、「あてはまる」の回答が増加しました。「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は昨年度より微増となりました。いじめや学校生活の悩み等を聞く「きらきら旬間」を6月と11月に設けて担任が子供達と面談を実施しております。今後も職員が子供達に寄り添い温かな学校経営を推進していく機運を醸成してまいります。

◇6「いじめをしたりされたりせずに、友達と仲良くしながら楽しく学校生活を送っている」

「よくあてはまる」の回答が昨年度より減少して「あてはまる」の回答が増加しましたが、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は昨年度よりやや減少しました。昨年度よりいじめの認知件数は減少しておりますが、「いじめは絶対に許さない」という意識を今後も職員間で共通認識し、子供達がよりよい人間関係を構築できるように自己有用感のある学級経営に努め、未然防止に努めてまいります。

◇8「本をたくさん借りて読んでいる」

「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が昨年度より増加しており、両方の合計が9割となり、昨年度より1割ほど増加しております。子供たちの希望をもとにした新書の購入や掲示等の環境整備等、読書への興味・関心を高める取り組みをしてまいりました。また、児童委員会が読書推進週間に合わせて、様々なジャンルの本を読むように促す企画（読書パズル）を提示する等の取組みにより読書の幅を広げる一助になったものと考えられます。今後も読書の幅を更に広げる取り組みを継続してまいります。

◇11「学級の人や先生、地域の方に進んであいさつしている」

「よくあてはまる」の回答が昨年度より減少して「あてはまる」の回答が増加しましたが、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計は昨年度とほぼ同じ数値でした。これからも自然にあいさつができるように、あいさつの大切さを学級での指導や児童会での取組みを推進してまいります。

◇15「地域での体験活動をする時に、社会や理科、国語で学習したことを生かしている」

「よくあてはまる・あてはまる」の回答が増加、昨年度より両方の合計で16%の増加がみられました。今後も地域との関わりを意識した教育課程の編成や実践を推進してまいります。

****学校評価における保護者アンケート結果の考察****

◆1「学習内容の理解」

「よくあてはまる」「あてはまる」の回答の合計が90%と、ほぼ昨年度と同様となりました。今年度から各教科でタブレットを使用した学習が本格的に行われるようになり、子供達の学習意欲の向上に寄与しております。今後も情報収集・情報整理や発表・発信、子供同士の意見交流等の様々な場面で、有効活用の仕方を研究してまいります。

◆2「家庭での自学」

「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が昨年度と比較してやや減少しました。更に「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答が昨年度よりやや増加した結果となり、全体の4分の1が家庭学習を自ら進めることができない状況にあります。家庭学習の内容を検討する等の対応を検討してまいります。

◆3「担任や学校への相談」

「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が昨年度より減少しており、両方の合計で16%の減少となりました。コロナ禍での学校生活が2年目を迎え、授業参観や学級懇談会等が急遽中止になる等、保護者の方が学校を訪れる機会が激減していることが要因と考えられます。学校生活や授業の様子をホームページで動画配信する等の取組みを行いました。今後も保護者の方との信頼関係が構築できるようにこまめに連絡を取る等の対応を継続してまいります。

◆6「読書に親しみ、本をたくさん読んでいる」

「よくあてはまる」「あてはまる」の回答の合計が42%で、昨年度とほぼ同様の結果でした。児童会の主体的な取組みやPTAの家族読書の取組み等の成果が昨年度から継続して表出したものと考えられます。今後も読書による豊かな心情の醸成や語彙力の育成、情報収集・活用力の育成に努めてまいります。

◆8「基本的な生活習慣の形成」

「よくあてはまる」の回答がやや減少、「あまりあてはまらない」の回答がやや増加という昨年度とほぼ同じ結果となりました。今年度、メディアコントロールデーを設定し、メディアとの付き合い方は各家庭の状況に合わせて決定して実践するという取組みを行いました。自己決定の場を取り入れ、規則正しい生活の大切さについて子供達に伝えていく機会を創出してまいります。

◆12「家庭で生活科や総合的学習のことが話題になる」

「よくあてはまる」の回答が10%減少し、「あまりあてはまらない」の回答が増加しました。様々な体験活動内容を学級だよりでお知らせしたり、学習発表会でタブレットを活用した資料作成や発表での活用等の工夫をしたりしてまいりましたが、今後も地域や保護者の方に伝わるように情報発信をしてまいります。

全体的な考察

学校経営の重点【自分たちで学校生活を新たに創っていく子供の育成】

◎未来につながるわくわく体験

経営の重点1 自律した学びにつながる学習に改善する

自律した学びにつながる学習を推進するには、課題を解決するためにどのような道筋で学習を進めるかといった見通しを持つことが大切です。そのために、課題や学習内容を整理する思考ツールの活用の方と課題について調べたことや自分の考えを友達等に発信するICT機器の効果的な活用方法について研究を積み重ねてきました。また、学力テストの結果を踏まえてつきたい力を明確にする話し合いを行い、職員間で共通理解を図り、授業に生かす取組みを行いました。課題解決のために意見交流することで自分の考えに取り入れたり、学んだことを発信することで他者から価値づけされたりすることで、学習の次のステップに繋がる意欲的な姿がみられました。課題に関する児童のアンケートにおいて、昨年度とほぼ同様の結果となりました。しかし、家庭において自ら進んで学習する姿に関わる保護者アンケートではあまり成果がみられない結果となりました。今後は、学校や家庭、学校生活全般を通して自律的な学びの姿がみられるような取組みをICT機器の活用を中心に据えて進めていきたいと思えます。

経営の重点2 未来に生きる子供に必要な資質・能力を育成する

ICT機器の活用能力やプログラミング的思考を身に付けることは、未来を生きる子供達にとって必要不可欠な資質の1つと考えます。そのために、授業場面では、ロイロノートを活用して児童の意見集約や友達同士の考えの比較や共有等の場面での活用を図りました。児童委員会の取組みでグループフォームを活用してアンケートを作成したり、長距離走の取組みにおいてスプレッドシートを活用して自分の走力のデータをグラフ化したりと、データ等の作成、発信を意識した資質の育成にも取り組みました。

また、「情報モラル指導カリキュラム」の作成及び実践やPTAを巻き込んだ「メディアリテラシー教室（オンライン）」の実施、親子で取り組む「メディアコントロールデー」の実施等、ICT機器の活用の推進と同時に情報モラルの育成にも力を入れ、正しいメディアとの関わりについて考える機会を創出しました。「メディアリテラシー教室」に関する保護者アンケートの回答では、「約束事をしっかり決めてメディアを上手に使いこなしてほしい。」「ルールを作り、守っていききたい。」といった前向きな意見が寄せられました。今後も活用面とモラル面をICT機器推進の両輪として子供達の資質・能力の育成を図ってまいります。

◎地域から学ぶ本物体験

経営の重点3 自治活動を通して生活を創る活動を改善する

「学校生活をよくする」取組みを子供達が主体的に実践できるように支援してきました。委員会の統合・再編や活動内容の見直し等を子供達を中心となって行いました。読書旬間やマラソン週間における各委員会の取組みにおいても、子供達の意見を中心に据えてこれまでの内容にとらわれない活動を企画して実践しました。また、コロナ禍でどのような運動会ができるか、自分たちでアイデアを出し合って計画・実践、ふり返りも子供達を中心となって実行しました。更に、ICT機器を適宜活用することにより自分達の取組みの成果の見える化が図られ、更に子供達の活動意欲が高まりました。

こうした取り組みの成果が児童アンケートの「自分たちで考えたためあてに向かって活動を工夫している」の項目において昨年以上の結果として表れています。

経営の重点4 地域を支える人材をつくる工夫をする

地域を支える人材をつくるには、まずは子供達が本物の体験をして地域の良さに気づき、「地域が好き。」と言える子供になることが大事です。そのために、生活科や社会科、理科等の学習において実際に地域を歩いて直接話を聞く体験や地域の宝にふれる機会をこれまでと同様に創出してきました。6年生における東京四谷小との交流では、コロナ禍を逆手にとり、すべてオンラインで繋がる交流を複数回にわたって計画・実行しました。地域づくり委員会の協力のもとに種まきに関わったひまわり迷路のオンライン体験、自分達が育てた里芋等を活用してオンラインでの芋煮会を企画する等、これまでにない視点での交流ができました。児童のアンケートの結果からは「体験活動をもとに自分の考えをしっかりと書く」や「地域での体験活動と教科の学習との関係」の項目で、昨年度同様高い数値を示しています。

また、特別支援教育を窓口個別に支援が必要な児童への対応を進めてまいりました。また、全校生のいじめ等の悩み事を把握するため、これまで同様にいじめに関するアンケート調査や悩みや困り事を聞く個人面談を実施してまいりました。昨年度よりいじめの認知件数は減少しておりますが、アンケートからもわかるように悩みを抱えている子供がいないわけではありません。今後も子供ひとりひとりに目を向ける指導を継続していきます。

●○○○学校評議員会でのご意見<書面開催>○○●●

- *コロナ禍の中、活動が制限され大変なことと思います。その中でも、子どもたちがたくましく成長できますよう心から願っております。
- *アンケートの結果から学校の取り組みの成果が継続して良い方向に出ていると感じました。
- *メディアの発展・普及に伴い、家庭での読書というのはなかなか難しくなっているのではないかと思います。学校では積極的に読んでいるようなので継続していただきたいです。
- *「干布小学校だより」を通して、4月に「簡単に中止ではなく、今できることを工夫してやってみる。」とスタートし、運動会での協力、心のアンテナ、四谷小オンライン交歓会などを経て、自分たちの考えを持って自分たちで創る姿を感じ、心より感動いたしました。
- *1人1台のタブレット導入による新しい学習スタイルで、資料の作成からもリモート学習やオンライン交流まで、子供達が難なく操作活用し、学習に取り組んでいる姿に驚きました。
- *コロナ禍の最中、工夫をこらした教育実践を進めておられることに感謝申し上げます。制約がある活動についてのアンケートですので、数値の減少はしかたないのではないかと思います。いじめの「3発見のきっかけ」で①「担任が発見」が0というのは少し気になります。